

農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人：ロバート・マー
ウィットマー

アジア学院研修報告

農村伝道神学校教師 池迫直人

二〇一一年春、あの東日本大震災により甚大な被害を受けたアジア学院が、本校に研修場所の提供を依頼してきました。これが後に画期的な意義を持つことになったのです。一九七一年営利農場を廃止し、一九七三年保育科の廃止と同時に、現アジア学院、当時の東南アジアコースが本校から離れていったのは、当時の事情を間接的にうかがい知る限りでは、無理からぬことだったといえます。その当事者である方々には禍根を残したことでしょう。その過去がアジア学院の被災と避難という複雑な事情により、偶然にも修復的に舵を切ったことに、感慨深い思いを抱くものです。



そして今回は、学生六名、

年一月の第一水曜日にバス二台で訪ねてこられるのです。毎年、その年の四月以前には見ず知らずの研修生たちが形成してきたコミュニケーションを迎えて、研修生の皆さんに簡単な歴史事情を説明し、キャンパスを散策していただき、本校学生スタッフと昼食を共にする機会が与えられてきました。また同時に本校から派遣する夏季の実習を受け入れてくださる制度的な手を差し伸べてくださり、これまで本校から四名の学生がお世話になりました。

安全保障関連法廃止！ 辺野古新基地建設反対！

教師四名他一名からなる団体として、九月三〇日から二泊三日の研修を受け入れてくださいました。初日午後、研修は、英語による自己紹介にはじまり、多くの者が戸惑いつつ、担当の山下崇さんのリードのもと、自らを見つめ直すセッションから始められました。二日目は雨が降りしきる早朝のラジオ体操にはじまるフールドライフワーク、それま



ではみられなかったような積極かつ果敢な態度で臨む学生たちのワークでした。午後は、北東インドの少数民族ナガランド出身のヴェロさんによ

る、何を尋ねても「OK、OK」という返事しかない、カレー作りのワークショップでした。辛さ別に三段階に分け



てできあがった三種のカレーを、思い思いにバナナの葉っぱにつぎ分けて、アジア学院校長荒川さん、大柳さんなども参加してくださり、談笑しつつよき交流の食卓を終えました。そうこうするうちに、あつという間に三日目午前を迎え、次第に内省が深く沈潜していく山下さんの絶妙なリードによりだれもが、あらためて自らを見つめ直した最後のセッションを終えました。



お昼には、しばらくは口にすることがない山羊のミルクを名残惜しくすすって、セミナールハウスの屋根軒先にぶら下がる大きなスズメバチの巣を心配しながら、わたしたちは

アジア学院を後にしたのでした。学院の日常的な営為により、参加者の個人レベルでは食農に身体が支えられていることを体験的に学び、同時に自らの内省のためのゆたかな時を過ごすことができました。帰る直前に全員で菊地創先生を訪ねて短くご挨拶を差しあげました。菊地先生には、二〇一八年本校の農村伝道シンポジウムに講師として、東南アジアコースが分かれる直前の歴史をお話しいただいたのでした。

この本校の歴史という大きな観点による意義においても、ひと言触れておくべきでしょう。現在欧米では、いわゆる観念的な思考だけに頼る神学、その神学に立脚する教会が直面している問題が共通してみられます。アジア学院にもプリストン神学校から研修のために訪ねて来られるとうかがいました。経済的な発展を遂げた国々、物質的に豊かなになっても様々に問題を抱える社会の中に遭わされる教会で、身体的に生きる志向に陰りを来たしているような言葉から人々は離れていつていることは、あえて言い及ぶまでもありません。自省こそ求められ決して誇れるものではありませんが、偶然にも本校では、現場志向、現場での実習

が伝統的に守られ、細々ではありましたが、営まれてきました。それに近年、靈性の涵養という柱(瞑想)が立てられ、座学とあいまって三本の柱が立てられています。これらが有機的な連関をもって育まれようとする歩みが始まったばかりのこの時期に、今回の研修は有意義な一歩であることが、後に知られるようになって、一度は深い傷を負って、身体の三分の二を失ったかのような失われた関係が、皮肉にも東日本大震災により再生しはじめて、つながりを発展的に育む画期的な一歩を踏み出したといえるでしょう。



参加者個々人はもとより本校の歴史においても意義深い研修の機会が与えられたことを、とりわけアジア学院の皆さん、および、研修実現のために財政支援を献げてくださ

ったカナダ合同教会のまだまみえぬ方々に、感謝しつつ本稿を献げます。

夏季教会実習報告

鳥潟紘一

八月三日より三〇日までおよそ一ヶ月、宮城県にある白石教会にて夏季実習をさせて頂きました。八月、コロナ感染がめまぐるしく増え続けるなかでの実習となりました。始め東京から赴いて良いものかと不安もありましたが、教会の皆さまには快く受け入れて頂き、また多く応援をして頂きました。白石教会は礼拝出席一〇名前後、いわゆる地方の小さな教会です。主日の礼拝と水曜日の聖書を読む会が主な集会になりますが、面白いことに、人の行き交いは一週間を通して絶えません。きゅうりを持って来てくださったり、桃をくださったり、お祈りに訪れられたり、突然初めての来訪者があったり。ここに教会が立つことの意味を考えさせられました。私自身地方出身で、「地方の小さな教会はこれからどうすればよいのだろう」と考え始めたことから農村伝道神学校入学を決めた次第です。もう四年、便利な解決策は見つかりません。現場を知らない人間に何

事か策を見いだせるはずはありません。今回実習中、改めて立ち返らされたのは、教会があるということは人間がいるということだということです。そんなの当たり前のことなのですが、不意に教会を規模で見ているときがあります。会員数、礼拝出席数、献金額とか。大きいな、小さいなど。教会の現状を知る重要な情報であることに間違いありません。でもそこに行くところにはいかない人たちがいて、そこだからこそあるリアルな恵みや課題に気付かされます。蔵王の天然水うまいとか桃うまいとか、温麺と素麺の違いは結局よく分からないとか。そして教会に訪れる一人ひとり心に抱えるもの、またその人柄こそ、情報には表れない教会の具体的な姿なのだと思います。一人ひとりが尋ね求める教会という現場を思うと、「履物を脱ぎなさい」と叱責されるような緊張感があります。教会の大小ではなく、それぞれの人にまつわる大きな縁が教会を立たせているのかもしれない。教会はなくならないと思えました。地方の小さな教会で、ほんの少しの時間を過ごさせて頂き、人を粗末にしない生き方を肝に銘じようと学ばせて頂きました。



白石教会の皆さん

松本吉氏光

実習先は岩手県にある山形村チャペル、盛岡仙北町キリスト教会、奥中山教会を予定していました。始まってすぐにコロナ感染拡大によって緊急事態宣言が発令され、当初の予定を大幅に変更せざるをえませんでした。そのような中、実習の受け入れ、プログラム全体の調整のために奔走、労してくださった角谷晋次牧師並びに、協力してくださった方々に心から感謝を申し上げます。山形村チャペルでは、第四七回岩手県三愛山村塾が開催され、山形村の歴史、農業、福祉、教育、医療、教会、都市と地方、様々な分野の話聞くことが出来ました。三愛山村塾が開催された山形村チャペルでは、普段は山形村、久慈市から数名が集まり礼拝

を守っています。教会員の方はいませんが地元から集まる人たちによって教会が豊かにされていることを知る良い時であり、酪農をされている方、林業、炭焼きをされている方を訪ね、仕事の様子を見学させて頂きました。ご自宅にも招かれ、山形村の歴史について、縄文時代から遡って、牛方の村の歴史(塩、鉄、木炭の運搬)、鉄鉱山、炭焼き、飢饉の歴史、出稼ぎ、蝦夷という言葉、暮らしと食について、親から聞き伝えた口伝、そして、山形村誌編集の事など、興味深い話を次から次へと聞くことが出来、おわりに伝統料理の「ひつつみ」のご馳走も頂くことが出来ました。美味しかったです。

九戸村で立体農業の実践をしておられる小井田農場を訪ねる機会がありました。仕事で忙しい中、農場案内、立体農業の実践の様子、牛のミルクを使ってチーズ作りへの想いなど、聞くことが出来、農場で採れた手打ちちるも頂きました。これまで立体農業の話は聞くことがあってもそれを実践している現場を見たのは初めての経験で、クルミの木の下で牛が草を食み、その間を鶏が、木や土の中に潜む虫を探している様子は面白く、その土地の条件、環境、

家畜の生態に合わせた方法を研究、実践しているのだそうです。

盛岡仙北町教会は幼稚園が併設されていました。コロナ感染予防対策の中、礼拝に参加する機会を与えて下さったこと、教会員の皆様との出会いに心から感謝します。



第47回岩手三愛山村塾

山の賑わい再び

昔、農村伝道神学校には神学科の他に、保育科、東南アジア科、農業研修科があり、野津田の山は賑わっていました。その賑わいを取り戻すべく、現在は貸出農園の他にも、さまざまな団体に場所を提供しています。現在使用してい

ない教職員住宅を改装して使用するなど校地の環境整備にも役立っています。

◎のづた里山の家

グランドの東側にある旧校長宅を「里山の家」が使用しています。野津田一帯は、小さな動植物の宝庫です。しかし野津田公園の全面的な運動公園としての整備計画により、まさに失われつつあります。

「里山の家」はこの貴重な里山を守ろうとする人や団体の活動の拠点です（本校もその一つ）。代表である久保礼子さんは「とにかくここにきて、里山の素晴らしさに触れて欲しい」と言います。久保さんは野津田公園を中心に活動する「野津田・雑木林の会」の発足時から関わり、野津田公園に里山を残すために幅広い市民活動を行っています。仲間とともに、四季折々の植物や動物たちの写真や風景をわかり



パネルの展示（右が久保さん）



ぱんだ幼稚園の入口と藤田園長

◎こどもの家 ぱんだ

こどもの家 ぱんだ（園長 藤田直美さん）は、認可外幼稚園として、保育園や幼稚園に通わない幼児や未就園の親子などが通ってきています。以前は山崎団地で活動していましたが、この自然豊かな神学校に移ってきました。「自然



里山の家で一休み！

やすいパネルにし、イベントや学習会で展示して、一人でも多くの市民に四季折々の里山の魅力を知ってもらい、足元の豊かな自然の大切さを実感してもらいたいと語っていました。

豊かな場所で、自分らしく生きる子どもになつてくれたら」と藤田園長は話します。自分たちで古い木造の旧職員住宅を直し、庭を整備し手作りのジャンглジムなどを作り、いつも子どもたちの元気な声が聞こえてきます。



雑木林に囲まれたプール

◎フリースクール「はっちやく」

学校に行ってなかったり、時々行ったり、学校に行くとなつてくる子どもたちのためのフリースクールです。名称は「はっちやく」（発着）、ここにやってくる、やがて巣立つてゆく、そんなイメージがこめられています。代表は禿拓史さん。教団の牧師でもある大城鉄也さんと二人でこの一〇月から始めました。旧事務長宅を子どもたちも参加しての内装を改築、手作りの



子どもも参加！ピザ窯作り



ウッドデッキを作るスタッフ

簡単な窯でピザを焼いて食べたり、木登り、ウッドデッキも作って食事をしたり、自然の中で遊んで、学んで、そして癒されていく場所になっています。

故國安敬二先生記念 礼拝が行われる。

一〇月一九日(火)の学内礼拝において、二〇一九年一〇月二六日に亡くなられた國安敬二先生を記念する礼拝が行われた。國安先生は農村伝道神学校校長と鶴川学院理事長を歴任された。

礼拝には、学生と教師のほか、禿理事長、同窓生、そしてオンラインでの参加もあり、全部で四五名が出席した。説教は特任教師である瀬戸英治牧師が担当し、國安先生は農伝が本場に苦しい時に校長になられ、「本校の使命」と言う進むべき方向性を示してくださる、話し合うことの大切さを、身をもって教えてくださったこと、また牧師としては幕張教会を開拓され、そして三里塚教会問題に拘られて、和解の道を模索し続けたと紹介した。



同窓生等個人消息

任地が変わった等で掲載可の連絡の取れた方を記載させていただきます。移動など変更のある同窓生の方がおられましたら、神学校事務までご連絡いただければ感謝です。

〔逝去〕

笹刈昭平(農伝事務長在任一九七三年〜一九八二年)、一〇月一四日召天 九二歳

学事報告

◇九月二八日(火)〜二九日(水) 集中講義 牧会心理学 大西秀樹、石田真弓(オンライン)
◇九月三〇日(木)〜十月二

日(土) アジア学院スタディ・キャンプ(二一名参加)
◇十月五日(火) 後期授業開始

◇十月一九日(火)〜二三日(土) オープンキャンパス

九つの授業に参加
◇十月二三日(土) 農伝デー

実習報告会と禿拓史さんによるフリースクールの話。後援会や学生による物品販売など。約五十名が参加
◇神学校日礼拝派遣

一〇月一〇日 城西教会

池田昌功

一〇月一〇日 上大岡教会

高柳研二

一〇月一〇日 代々木上原教会

吉川拓実

一〇月一〇日 三鷹教会

後藤田由紀夫

一〇月一〇日 埼玉和光教会

齊藤織恵

一〇月一〇日 横浜港南台教会

松本吉氏光

一〇月一〇日 高座渋谷教会

鳥潟紘一

一〇月一七日 三・一教会

松本吉氏光

一〇月一七日 相武台教会

鳥潟紘一

一〇月二四日 まぶね教会

松本吉氏光

一〇月二四日 大泉教会

齊藤織恵

一〇月三十一日 永山教会

松本吉氏光

一二月二一日 小田原教会(予定) 鳥潟紘一

理事・評議員報告

次回の理事・評議員会は、一月二六日(金)午後三時から日本基督教団生田教会にて開催いたします。

お詫びと訂正

前学報に同封しました「二〇二〇年度鶴川学院の事業報告と財務報告」において、配布した一部に以下の間違いがありました。お詫びし訂正させていただきます。

訂正箇所

財務報告書 貸借対照表の資産の部の「有形固定資産」の額は「三二九、二五五、六七四」です。なお、合計金額等は間違いありません。(瀬戸)

お知らせ

◇十二月三日(金) 待降節礼拝
◇十二月七日〜一〇日 集中講義「世界キリスト教史」…大倉一郎(オンライン) 聴講希望の方は事務室まで。聴講料二万円。
◇十二月二二日夜七時〜一八日 特別講義「接心」…佐藤研

2022 年度入学案内

◆受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上(洗礼式を行わない教派については、それに準ずる)の教会生活をしている者。
- (2) 所属教会が推薦し(可能であれば)、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

- 神学基礎コース：2年間(2年間で修了することも可)。
- 基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。
- 神学専門教職者養成コース：2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆学費

- 入学金 60,000 円(入学時のみ)
- 授業料 240,000 円(年額)
- 設備費 30,000 円(入学時のみ)

◆受験手続

- 次の書類を期日までに郵送または持参する。
- (1) 入学願書(本校指定の書式)
 - (2) 履歴書(本校指定の書式)
 - (3) 教会(牧師または役員会)の推薦書(可能であれば)
 - (4) 最終学校卒業証明書(または卒業見込み証明書)
 - (5) 受験料 10,000 円(振り込み)

◆入学願書受付

- 第1回 2021年10月5日(火)〜11月5日(金)
- 第2回 2022年1月4日(火)〜2月4日(金)

◆入学試験日時

- 第1回 2021年11月16日(火)午前9時〜午後3時
- 第2回 2022年2月15日(火)午前9時〜午後3時

◆会場 本校教室

- ◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください(無料)。

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024

Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711

Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp

ホームページ: https://noden.ac.jp/

振替番号

農村伝道神学校 00160-6-18485

農村伝道神学校後援会 00120-6-24418